

地域おこし協力隊がやって来ます！

～観光振興支援員として齋藤さんに委嘱状～

村では、4月から地域おこし協力隊を受け入れます。地域おこし協力隊とは、人口の減少や高齢化が進み人材不足な地方において、地方での生活を望む都市部の人たちを迎え入れ、地域の課題解決のために各分野での活動に携わってもらうことにより、地域の活性化とまちおこしの一員となってもらう制度です。平成21年度から総務省の政策として創設されました。平成27年度には全国673の自治体で2,625人の隊員が活躍しています。

この4月から協力隊員として関川村で活動してくれる齋藤知幸さんと地域おこし協力隊制度について紹介します。

活動期間は？

おおむね1年以上3年以下の期間、村から委嘱を受け、地域で生活し、様々な地域協力活動を行っていただきます。3年を超えても活動の継続は可能です。

平成27年3月末までに任期が終了した地域おこし協力隊員のうち、約6割が同じ地域に定住しています。

都市部から、関川村を選んできてくれた齋藤さんに1日も早く村を知ってもらえるようご協力ください。

どんな活動をするの？

協力隊の地域協力活動はさまざま、農林漁業の応援、住民の生活支援などがあります。協力隊は、決して何でも屋ではありません。齋藤さんは、村全域の観光振興支援活動を行います。

また、その地域への定住・定着を図りながら、外から来たことでわかるその地域の良さなど、新たな視点も含めた活躍が期待されます。広報せきかわでは、随時齋藤さんの活動の様子を伝えていきます。

協力隊プロフィール



〈氏名〉齋藤知幸さん
〈転入先〉下関

4月から地域おこし協力隊として活動することになりました齋藤知幸（ちゆき）です。生まれは新潟市秋葉区で、村のことはわからないことだらけです。いろいろなことを教えてください。どうぞよろしくお願いします。これまで、東京でインテリアデザインをしたり、イタリアで料理を学んで料理教室を主催したりと、様々な分野で仕事をしてきました。外国を旅するのも好きで、いろんな場所を見てきて日本の良さを見つめなおすことができました。そんな目線で村の宝ものを探そうと思っています。そして、村外の方々に魅力を知ってもらえるよう情報を発信したり、体感イベントなどを企画したりして、関川村のファンをつくるお手伝いができたらいいなと思っています。

村でもイノシシ被害が増加中！

～猟友会で捕獲檻設置・巻き狩りを実施～

関川村でもイノシシと思われる畦畔の掘り荒らし被害が相次いでいます。

県でのイノシシ分布の中心は、上越や中越でしたが、7年ほど前に村上市の用水路で発見され、村でも平成26年に2頭、平成27年には七ヶ谷地区で4頭、九ヶ谷地区で1頭が捕獲されました。

村では、対策として昨年7月にイノシシ用捕獲檻を購入し、被害情報のあった箇所に設置しましたが、現在のところ捕獲の実績はありません。



▲皆川さんが捕獲したイノシシ

また、2月15日までの猟期に3頭捕獲されたことを受け、猟友会村上支部関谷分会では足跡の残りやすい2月下旬から巻き狩りを実施。被害情報のあった七ヶ谷地区で10頭の集団を確認しました。

猟友会の堀隆一さん（湯沢）は、「サルより学習能力が高く捕獲が難しいが、ネズミ式に増えていく前になんとかしたい」と話し、猟期に1頭捕獲した皆川実さん（下関）は、「民家近くで姿が目撃されているので、生ごみなどで餌付かないように、エサ場を作らないようにしなければならぬ」と話していました。

5月31日(水)はチャレンジデー! 地球規模のスポーツイベントに参加します!

毎年5月の最終水曜日に、世界中で開催されている住民総参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」に、関川村が参加します。

チャレンジデーとは、人口規模がほぼ同じ自治体間で、1日15分以上、運動やスポーツを行った住民の数(参加率)を競います。敗れた市町村は、対戦自治体の旗を1週間庁舎に掲げ、相手に敬意を表するルール

です。バスケットボールやバレーボール、ゲートボールなどの仲間との活動のほか、ウォーキングや自宅での筋トレでも参加できます。

チャレンジデーの5月31日の午前0時から午後9時までの間に、関川村にいる全ての人が参加できますので、皆さん参加してください。

なお、詳細については5月号などお知らせします。



自慢の愛車シルビア

(S15) が世界を走る

大島優紀さん(上野新)



国道290号線の上野新地内を通ると気になるスポーツカーを見かけたことはありませんか。車高の低いスポーツカーで、あまりの車高の低さに車道を走ることが出来るのかと思っただけではありません。また、夜遅くまで、明かりのついていない作業場が気になった人は多いと思います。

その車の持ち主は、大島優紀さん(上野新)、26歳です。大島さんは、中学3年生からバイクに興味を持ち、お父さんが車の整備士だった影響もあり、原付免許を取る頃にはバイクの整備もするようになっていました。

現在は、建築士の傍らシャ

コタンドリフトチーム「RE MAINS LOW(リマインズロウ)」に所属し、趣味のスポーツカーを楽しんでいます。趣味とは語るものの、その域を越えていて、2016年に愛知県のモーターランド三河で開催されたドリドレ走(ドリフトドレスアップ走)でベスト賞を受賞、また「2016シャコタンオブザイヤー」にも輝き、その道では知らない人がいない有名人です。

大島さんが作りあげる車は、日本国内のみならず、世界からも注目されており、今年の1月にベスト賞に輝いた愛車シルビア(S15)をネットオークションに出品すると、世界中から問い合わせが殺到し、愛車はイギリスのカーショッブに譲られたそうです。大島さんは、「自分の車がイギリスの景色をバックに走っている姿がインターネットを通して見れるといいな」と話していました。



▲ドリドレ走での愛車シルビアS15

大島さんは、現在も2台の車の制作に取りかかっている、5月に三重県鈴鹿市で行われるドリドレ走に向けて愛車のチューンアップにいそしんでいました。とことんやらないと気が済まない性格で、日本一にも満足していない、今年はずいぶん海外でも走ってみたいと話していました。

また、スポーツカーを盛り上げたいと考えており、子供たちにも車やバイクが好きになって欲しいので、興味を持ったら、気軽に「ガレージ大島」(作業場)に寄ってもらいたいと笑顔で話してくれました。